Asada
環境を守る親切ツール

可搬式リフト

水圧圧気用アッパー

取扱説明書

A-40・A-56

G-40（C）・G-56

L-443・L-63

【ご使用前に必ず本書をお読みください。】

IM1510

安全上の注意

このたびは、アッパーをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。この取扱説明書では、あなたや他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。

その表示とその意味は次のようになっています。内容を理解してから本文をお読みください。

⚠ **警 告** **誤った取扱いをすると使用者が死亡または重症を負う可能性が想定されることを表しています。**

⚠ **注 意** **誤った取扱いをすると使用者が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定されることを表しています。**

⚠警告

共　通

① 上昇・下降の作業時には周囲に人がいないことを確認してから作業してください。特にお子さまには十分ご注意ください。
② 強風時など悪天候の場合は、屋外で使用しないでください。
リフトが転倒して故障やケガをする恐れがあります。
③ アッパーを移動する場合は、必ず降下させた状態で行ってください。
上昇した状態での移動は、リフトの転倒、荷物の落下の恐れがあります。
④ 作業中は、キャスターのブレーキをかけてください。不意な移動によりケガをする恐れがあります。

水圧・気圧

① 荷物専用ですから荷物の昇降以外には使用しないでください。
リフトが転倒して故障やケガをする恐れがあります。
② 安全のため、推奨積載荷重以下でご使用ください。
（15ページ図13参照）
推奨積載荷重以上での使用は、故障の原因となります。
③ 荷物落下防止のため、荷物をベルト等で天板に固定してください。

気　圧

① リフトは積載荷重及び積載位置がかわると伸縮しますので十分にご注意してください。故障やケガをする恐れがあります。
② 荷物を外したり荷物が落下した場合は、シリンダが急にあがりますのでご注意ください。ケガをする恐れがあります。
③ 荷物を下降する場合、気圧リフトの特性でシリンダが急激に下降する恐れがあります。
荷物はベルト等で天板に固定してから上昇・下降してください。

⚠警告

乗　　用

① 乗用リフト「アッパー」は1人乗り専用ですので2人以上乗って使用しないでください。リフトが転倒して故障やケガをする恐れがあります。
② ステージの手すりは、ロックピンで確実にセットしてください。転落して故障やケガをする恐れがあります。
③ ステージから乗り出さないでください。転落して故障やケガをする恐れがあります。
④ 作業中は、ヘルメット及び安全帯を必ず使用してください。ケガをする恐れがあります。

共　　通

① アッパーは上昇または下降時、シリンダの上昇または下降順により、シリンダが急作動することがあります。
荷物の落下に注意してください。
本製品は多段シリンダで構成されています。
水圧・気圧リフトにかかわらず、軽い質量の荷物を上昇・下降する場合、
多段シリンダは、抵抗の少ないシリンダより自由に上昇または下降します。
上昇時は太いシリンダより上昇、下降時は細いシリンダより下降しない場合、
突然上昇シリンダまたは下降シリンダの順番が入れ替わり、シリンダが
急作動する状態が発生します。
この現象が発生した場合、荷物の落下に注意してください。

⚠警告

木製天板ご使用時

① 天板をご使用される場合は必ず、荷物の荷重中心がアッパーの中心になるように置いてください。

② 荷物の荷重が天板端部にかからないようにしてください。
天板の破損、荷物の落下の原因になります。

③ 荷物端部の突起物で、天板の端部に荷重がかかる場合は、荷重が直接アッパーの中心にかかるように改善してください。
天板の破損、荷物の落下の原因になります。

④ 雨天時、木製天板には水がかからないようにしてください。
天板が水分により歪み、破損の原因になります。

⑤ 破損した木製天板は使用しないでください。
荷物の落下の原因になります。

⑥ 所定以上の荷重が天板にかからないようにしてください。天板の破損、荷物の落下の原因になります。
（取扱説明書15ページ図13参照）

⚠注意

共　　通

① 水平な地面にアッパー本体を設置してください。
荷物の落下や転落によりケガをする恐れがあります。

② 最大上昇時のままスイッチの上昇ボタンを押し続けないでください。故障の原因となります。

③ シリンダに傷や強い衝撃を与えないでください。また、シリンダを無理に引っ張らないでください。故障の原因となります。

④ コード及びホースは確実に差込んでください。
故障の原因となります。

⚠注意

水圧・気圧

① 荷物はアッパー本体の中心に置いてください。
荷物が落下してケガをする恐れがあります。
② 昇降時には車輪は必ずロックしてください。
荷物が落下してケガをする恐れがあります。

水圧・乗用

① 水不足によるエアーの吸い込みがないようにご注意ください。
荷物の落下や転落によりケガをする恐れがあります。
② 絶対に凍結させないでください。凍結の恐れがある場合は、市販の不凍液を水タンクに混入してご使用ください。
③ アッパーの水を不凍液に交換したときは必ず試運転を数回繰り返してください。(シリンダ内まで不凍液と交換できます。)
この試運転を行わないとシリンダ内の水が不凍液と混ざらず、シリンダが凍結する恐れがあります。必ず試運転を行ってください。
④ 水タンクの水は定期的に交換してください。(月1回以上)水タンク内にゴミ等が入ったり、水の腐敗がないようにしてください。故障の原因となります。
⑤ 電圧降下させないでください。故障の原因となります。

気　圧

① 炭酸ガス又はコンプレッサを使用してください。それ以外のものは絶対に使用しないでください。圧力は0.97MPa以下でご使用ください。
② ボンベは必ず垂直に立て、ボンベのバルブはゆっくり開いてください。また、作業終了後は必ずボンベのバルブを閉めてください。
③ アッパーをご使用いただく前に2～3回空運転を行ってください。特にしばらくお使いいただかなかったときは必ず実行してください。

乗　用

① 脚はロックピンで確実にセットしてください。
リフトが転倒して故障やケガをする恐れがあります。

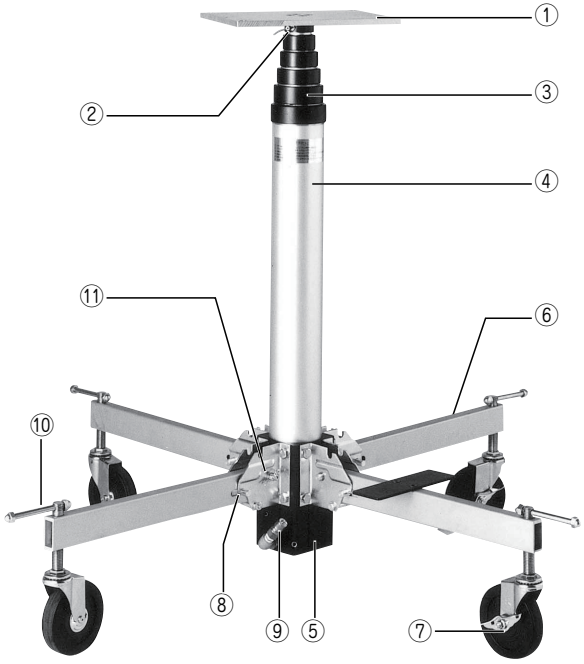
目　　次

●安全上の注意……1
●各部の名称
アッパー本体（水圧・気圧リフト）……6
ポンプユニットP22……6
アッパー本体（乗用リフト）……7
ポンプユニットP15JE……7
●仕様
仕様……8
標準付属品……9
別販売品……9
●使用方法
1.アッパー本体の組立……11
2.駆動装置の準備……13
3.使用方法……15
●故障診断……20
●保守・点検
日常点検
保守……21
日常点検……22

各部の名称

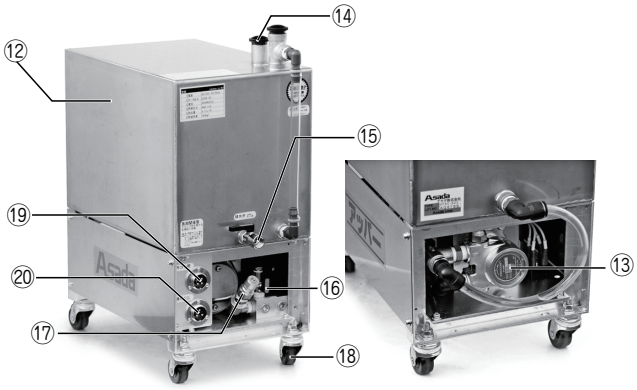
●各部の名称

アッパー本体（水圧・気圧リフト）



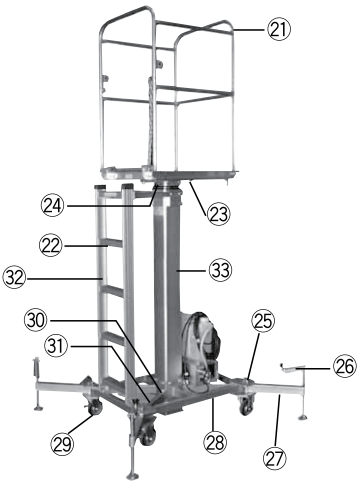
① 荷受プレート
② エア抜きバルブ
（水圧リフト用）
③ キャップ
④ シリンダ
⑤ ベース
⑥ 脚
⑦ キャスター
⑧ スライドピン
⑨ カプラ（オス）
⑩ アジャスターハンドル
⑪ 固定ピン

ポンプユニットP22（水圧・乗用リフト）



⑫ 水タンク
⑬ ポンプユニット
⑭ 注水口キャップ
⑮ ドレンバルブ
⑯ デコンプバルブ
⑰ カプラ（オス）
⑱ キャスター
⑲ リモコンソケット
⑳ 電源ソケット

アッパー本体（乗用リフト）



㉑トップステージ
㉒ステップ
㉓ステージ固定プレート
㉔エア抜きバルブ
㉕ロックピン
㉖アジャスターハンドル
㉗脚
㉘ベース
㉙キャスター
㉚水準器
㉛カプラ（オス）
㉜ハシゴ
㉝角柱

L-443・L-63

ポンプユニットP15JE（乗用リフト）

⑫水タンク
⑬ポンプユニット
⑭注水口キャップ
⑯デコンプバルブ
⑰カプラ（オス）
⑱キャスター
⑲リモコンソケット
⑳電源ソケット

仕様

●仕　様

水圧リフト	
コードNo.	品　名
UA400	アッパー　A-40
UA560	アッパー　A-56

気圧リフト	
コードNo.	品　名
UG402	アッパー　G-40S
UG403	アッパー　G-40C
UG562	アッパー　G-56S

※Cはコンプレッサ仕様

乗用リフト	
コードNo.	品　名
UL440	アッパー　L-443
UL630	アッパー　L-63

アッパー本体（水圧リフト）

型　式		A-40	A-56
高さ	最高（mm）	3,959	5,579
	最低（mm）	1,019	1,289
最大荷重（kg）		160	
接地対角長/対辺（mm）		1,176/832	1,556/1,100
供給水量（ℓ）		12	17.4
キャスタ径（mm）		φ125	
質量（kg）		23	29

アッパー本体（気圧リフト）

型　式		G-40	G-56
高さ	最高（mm）	3,959	5,579
	最低（mm）	1,019	1,289
最大荷重（kg）		160※	
接地対角長/対辺（mm）		1,176/832	1,556/1,100
キャスタ径（mm）		φ125	
質量（kg）		23	29

※コンプレッサ仕様最大荷重120kg

アッパー本体（乗用リフト）

型　式		L-443	L-63
乗員数（名）			
最大荷重（kg）		100	120
ステージ高さ	最高（mm）	4,400	6,300
	最低（mm）	1,730	1,980
シリンダ		シングル（角筒）	
ステージ寸法（mm）（L×W×H）		600×600×1,000	
接地対角長（mm）		2,050	2,400
質量（kg）		130	160
収納寸法（mm）（L×W×H）		780×1,200 ×1,730	780×1,200 ×1,980

ポンプユニット（水圧・乗用リフト）

型　式	P15JE	P22
タンク容量（ℓ）	15	22
モータ	100V.250W.50/60Hz	
使用温度範囲（℃）	-10～+50	
リリーフ設定圧力（MPa）	0.9	
質量（kg）	11	16
寸法（mm）（L×W×H）	368×278×473	360×234×535
適応機種	L-443	A-40 A-56 L-63

●標準付属品

コードNo.	品名	水圧リフト		気圧リフト		
		A-40	A-56	G-40S	G-40C	G-56S
UA038	アッパー本体A-40	○	–	–	–	–
UA024	アッパー本体A-56	–	○	–	–	–
UA141	ポンプユニットP15JE	–	–	–	–	–
UA140	ポンプユニットP22	○	○	–	–	–
UA009	木製天板　750×400mm	○	○	○	○	○
UA011	水圧ホース組1.5m	○	○	–	–	–
UA137	電源コード組	○	○	–	–	–
UA136	リモコンスイッチ組	○	○	–	–	–
UL021	リモコンスイッチ組（フック付）5m	–	–	–	–	–
UL025	リモコンスイッチ組（フック付）7.5m	–	–	–	–	–
UA015	ドレインチューブ	○	○	–	–	–
UA018	工具袋	○	○	○	○	○
UG023	アッパー本体G-40	–	–	○	○	–
UG016	アッパー本体G-56	–	–	–	–	○
UG004	圧力調整器	–	–	○	–	○
UG005	コントロールスイッチ付ホース	–	–	○	–	○
UG021	バルブ付ホース	–	–	–	○	–
FA0504	コンプレッサ0504	–	–	–	○	–
UL028	アッパー本体L-443	–	–	–	–	–
UL029	アッパー本体L-63	–	–	–	–	–
UL011	トップステージ	–	–	–	–	–
UL013	トップステージ	–		–	–	–
UL002	水圧ホース組	–	–		–	–

●別販売品

コードNo.	品名	摘要	照合
UA020	Y型金具	パイプ等円筒形材料の持上げ	㊷
UG007	炭酸ガスボンベ	気圧リフト用、炭酸ガスは未充填	㊸
UG020	ボンベ用キット	G-40で炭酸ガス使用時に必要	㊼㊽㊾
FA0504	コンプレッサ0504	気圧リフトの動力源	㊶
UG035	ボンベホルダ	炭酸ガスボンベのスタンド	㊾

乗用リフト		
L-443	L-63	**照合**
―	―	
―	―	
○	―	
―	○	
―	―	㊴
○	○	㊵
○	○	㊶
―	―	㊷
―	―	㊷
○	○	㊷
○	○	㊹
○	○	㊻
―	―	
―	―	
―	―	㊼
―	―	㊽
―	―	㊿
―	―	51
○	―	
―	○	
○	―	
―	○	
○	○	

使用方法

1 アッパー本体の組立

水圧・気圧リフト

①リフト本体を逆さにしてベース部の脚取付け用固定ピンを抜き、脚を差し込んで固定ピン及びRピンを取付けてください。（図1）
他の脚も同様に取付けてください。

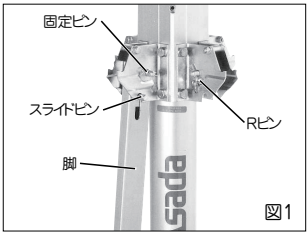


図1

②脚はスライドピンを押し下げ、持ち上げると固定されます。（図1）

③リフト本体を正立させてください。

④荷受プレートの上に荷物を載せて不安定な場合は、付属の木製天板を使用します。木製天板を荷受プレートの上に乗せ、天板に皿ボルトを差込み、裏側から蝶ナットで荷受けプレートに固定します。

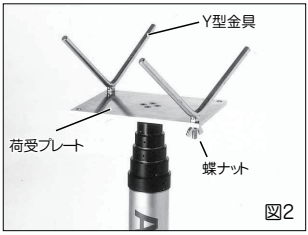


図2

⑤パイプ等、円筒形のものを持ち上げる場合は、別販売品のY型金具を使用します。荷受プレートの両サイドの穴にY型金具を差込み、蝶ナットで固定します。（図2）

乗用リフト

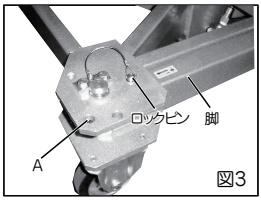


図3

①本体を垂直に立ててください。
②キャスターのブレーキをかけてください。(2箇所)
③本体四隅にあるロックピンを抜き脚を135°広げてAの位置にロックピンに入れてください。脚が確実に固定されているか、確認してください。(図3)
④残り3本の脚も同様にセットします。

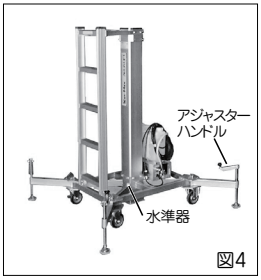


図4

⑤脚先端のアジャスタハンドルを回して上下稼働させ、アッパーを水平に保ってください。水平の確認は本体の水準器を利用して水平を出します。(図4)

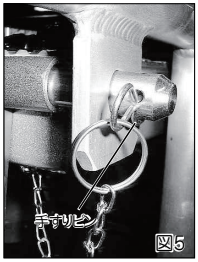


図5

⑥手すりピン(2箇所)を解除して手すりを90度引き上げてから再度手すりピンを差し込んでください。(図5)
⑦ステージに不具合箇所がないか確認してください。

⚠注意

1.ロックピンは確実に固定してください。ロックピンが抜けた状態で使用しない事。
2.作業時は、必ず脚を広げて使用してください。脚を畳んだ状態で使用しない事。

2 駆動装置の準備

水圧・乗用リフト

■ポンプユニット

①ドレンバルブが閉じているのを確認し、注水口より清浄な水または水道水を約14L(L-443)または約20L(A-40、A-56、L-63)入れてください。（図6）
市販のポリタンクをご使用になると便利です。

図6

②水圧ホースのボールバルブ側カプラ（メス）アッパー本体のカプラ（オス）に、他方のカプラ（メス）をポンプユニットのカプラ（オス）に取り付けます。
カプラ（メス）のスリーブ（外周のリング）手前に引きながらカプラ（オス）に差し込みますと、スリーブはバネでカチッと収まります。ホース両側を引っ張って、抜けないか確認してください。（図7）

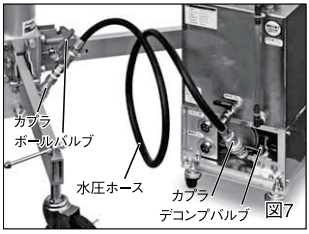


図7

③リモコンスイッチのプラグ（4P）をポンプユニットのリモコンソケットに位置を合わせて差込み、金属リングを右に回してロックしてください。（図8）

④電源コードのメタルコンセントをユニットの電源ソケットに差込み、金属リングを右に回して抜けないようにセットしてください。

図8

気圧リフト

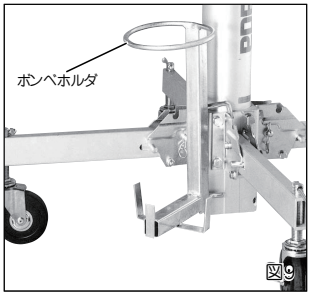


図9

■炭酸ガスボンベ使用の場合

①ボンベホルダをアッパーの脚取付部へ差込んで固定してください。固定後、ボンベホルダにボンベを差込んでください。（図9）

②圧力調整器をボンベに取付けてください。ナットをしっかり締めつけてください。

⚠注意

⚠ ボンベと荷受プレートが干渉してボンベがセットしずらい場合は、ボンベホルダにボンベを差し込んでからホルダをアッパーの脚取り付け部に差込んでください。

③コントロールスイッチ付ホースの赤色ホースのカプラを圧力調整器のカプラに取付けます。（図10）

④青色ホースのカプラをアッパー本体のカプラに取付けます。（図10）

⑤カプラの取付けは、カプラ（メス）のスリーブ（外周リング）を手前に引きながらカプラ（オス）を差込んでください。取付け後、ホースの両側を引っ張って抜けないか確認してください。

図10

■コンプレッサ使用の場合

バルブ付ホースのバルブ側のカプラ（オス）をコンプレッサのホースのカプラに接続します。他方のカプラ（メス）をアッパー本体のカプラに取付けます。カプラの取付けは⑤と同様に行ってください。（図11）

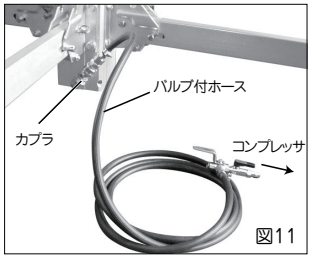


図11

3 使用方法

水平な場所にアッパー本体を設置します。

水平な場所でない場合、各車輪のアジャスターハンドルを回して上下可動させ、アッパーを水平に保ってください。乗用リフトは水準器にて水平度を確認してください。

水圧リフト

①電源コードのプラグを電源に差込みます。

②ポンプユニットのデコンプバルブを右に回して閉じ、水圧ホースのボールバルブを開きます。（図14）

③アッパー本体上部にあるエア抜きバルブを押して、リモコンスイッチの上昇ボタンを押してください。気泡が抜けて水が出るようになったらバルブを離してください。

④アッパー本体のキャスターをすべてロックしてください。荷受プレートまたは木製天板の上に荷物を載せます。

⑤荷重は中心にかかるようセットしてください。円筒形のものを持ち上げる場合は特にご注意ください。

図12

⑥安全確保のため、図13の荷重範囲でご使用ください。

⑦リモコンスイッチの上昇ボタンを押し続けるとシリンダは上昇し、離すと止まります。下降ボタンを押し続けるとシリンダは下降し、離すと止まります。

⑧上昇（下降）時に速度調整をしたり精密な位置で停止したいときは、水圧ホースのボールバルブのレバー（図7を調節しリモコンスイッチの上昇（下降）ボタンを押したり離したりしてご利用ください。

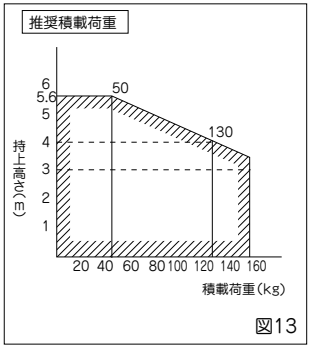


図13

⑨長時間止めておく場合は、水圧ホースのボールバルブを閉じてください。

⑩下降時に微速が必要なとき、高精度で止めたいときは、デコンプバルブを手動で操作してご使用ください。(図14)

⑪作業終了時、シリンダを下降させたいときは、デコンプバルブを開いてください。リモコンスイッチの下降ボタンを押し続けなくてもシリンダは自然に下降します。(図14)

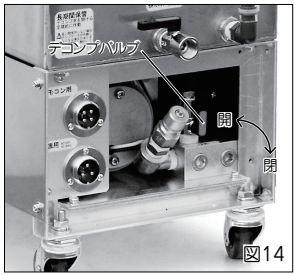


図14

⑫水を排出するときは、付属のビニールホースをドレンバルブの下に差込みドレンバルブを開けてください。

タンク内の水を強制的に排出する場合は、付属の圧力テスタを水圧ホースのカプラに差込み、ボールバルブを開いてリモコンスイッチの上昇ボタンを押してください。水は約45秒で完全に排出されます。(図19)

※タンク内に少し水を残したほうがエアーの巻き込みがなく次回の運転には良い事になります。

⚠注意

冬季に水が凍結する恐れがある場合は、市販の不凍液をタンク内に注入してご使用ください。

①アッパーの水を不凍液に交換したときは必ず試運転を数回繰り返してください。(シリンダ内まで不凍液と交換できます。)
この作業を行わないとシリンダ内の水が不凍液と混ざらず、シリンダが凍結する恐れがあります。必ず試運転を行ってください。

②水タンクの水は定期的に交換してください。(月1回以上)水タンク内にごみなどが入ったり、水の腐敗がないようにしてください。故障の原因となります。

故障時の対策

●自然下降する場合　一時的対策として、水圧ホースのボールバルブを閉じてください。

●アッパー本体が上昇位置で停電または電気的トラブルがあった場合、デコンプバルブを開いて下降させてください。

●電源が不足してモーターが始動しにくい場合、デコンプバルブを一時的に開き起動させてください。

気圧リフト

①各部の取付け及び接続が完全かどうか確認してください。
②アッパー本体のキャスターをすべてロックしてください。荷受けプレートまたは木製天板の上に荷物を載せます。
③荷重は中心にかかるようセットしてください。
④安全確保のため、15ページ図13の荷重範囲でご使用ください。

■炭酸ガスボンベ使用の場合

①ボンベのバルブをゆっくり開いてください。この時、バルブを早く開けないでください。
②コントロールスイッチの上昇ボタンを押し続けるとシリンダは上昇し、離すと止まります。下降ボタンを押し続けるとシリンダは下降し、離すと止まります。(図15)
③上昇時の速度調整をしたい時は、上昇ボタンの押し具合で調整できます。また、荷物の希望の高さに到着する前に離して、小刻みに上昇ボタンを操作し高さを調整してください。
④シリンダを下降させるときは、図15の急速排気弁を開けます。

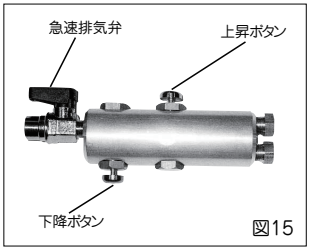


図15

⚠警告

気圧アッパーで荷物を下降する場合は、急激な落下に注意してください。
荷物はベルト等で天板に固定してから上昇・下降してください。

⚠注意

荷物を載せて降下させる場合は、安全のため急速排気弁を使用しないでください。

⑤作業終了後、ボンベのバルブを閉めてください。

■コンプレッサ使用の場合

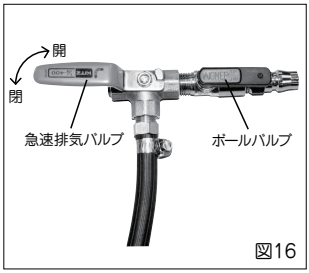


図16

①バルブ付ホースの急速排気バルブを閉じ、ボールバルブを開けます。
②コンプレッサの圧力調整器を0.8MPaに設定し、スイッチを入れます。
③上昇時の速度調整はボールバルブを操作（開閉）してご使用ください。
④荷物が所定の高さに上昇したら、ボールバルブを閉めます。
⑤コンプレッサのスイッチを切ります。
⑥シリンダを下降させるときは、急速排気バルブを開けてください。
⑦荷物を載せて降下する場合は、急速排気バルブを調整しながらご使用ください。

※コンプレッサの使用方法及び注意事項は、コンプレッサの取扱説明書をご参照ください。

乗用リフト

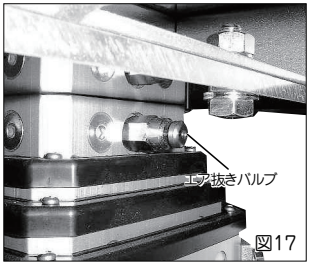


図17

①電源コードのプラグを電源に差込みます。
②ポンプユニットのデコンプバルブを右に回して閉じ、水圧ホースのボールバルブを開きます。（図14）
③アッパー本体上部にあるエア抜きバルブを押して、リモコンスイッチの上昇ボタンを押してください。気泡が抜けて水が出るようになったら完了です。（図17）
④手すりの安全チェーンのフックを外してステージに乗ります。
⑤安全チェーンのフックをかけます。
⑥リモコンスイッチの上昇ボタンを押し続けるとシリンダは上昇し、離すと止まります。
下降ボタンを押し続けるとシリンダは下降し、離すと止まります。
リモコンスイッチはフックに取付けてご使用ください。
（図18）

図18

⑦水を排出するときは、付属のビニールホースをドレンバルブの下に差込みドレンバルブを開けてください。タンク内の水を強制的に排出する場合は、付属の圧力テスタを水圧ホースのカプラに差込み、ボールバルブを開いてリモコンスイッチの上昇ボタンを押してください。
（21ページ図19）
※タンク内に少し水を残したほうがエアーの巻き込みがなく次回始動時のエア抜きが省けます。

故障時の対策

●自然下降する場合　一時的対策として、水圧ホースのボールバを閉じてください。
●アッパー本体が上昇位置で停電または電気的トラブルがあった場合、コンプバルブを開いて下降させてください。
●電源が不足してモーターが始動しにくい場合、デコンプバルブを一時的に開き起動させてください。

故障診断

水圧・乗用リフト

現　象	原　因	対　策
ポンプは回るが上昇しない	① デコンプバルブが開いている ② 水圧ホースのボールバルブが閉じている ③ 水圧ホースの両端のカプラが完全に入っていない ④ 水の不足 ⑤ シリンダ内にエアが入っている ⑥ 設定圧力になっていない P15JE・P22　0.9MPa	① デコンプバルブが閉じる ② 水圧ホースのボールバルブを開ける ③ カプラ完全に接続する ④ 必要な水の量を補給する ⑤ エア抜きをする ⑥ 圧力設定をする（保守・点検参照）
下降しない	① 電気がきていない ② 水圧ホースのボールバルブが閉じている ③ 水圧ホースの両端のカプラが完全に入っていない	① 電気系統を点検する ② 水圧ホースのボールバルブを開ける ③ カプラを完全に接続する
中間位置で自然下降する	① ポンプユニットのチェックバルブの圧抜きニードルが完全に閉じていない ② デコンプバルブが完全に閉じていない ③ バルブシート、チェックバルブ、ソレノイドバルブに異物が入っている ④ シリンダのジョイント部より水がもれている	① チェックバルブの圧抜きニードルを完全に閉じる（専門工場） ② デコンプバルブを閉じる ③ 異物を取り除く（専門工場） ④ シリンダ内のパッキンを交換する（専門工場）

気圧リフト

現　象	原　因	対　策
上昇スイッチを押しても上昇しない	① ホースの両端のカプラが完全に入っていない ② 炭酸ガスの不足 ③ コンプレッサの圧力不足 ④ 急速排気弁が開いている	① カプラを完全に接続する ② 新品の炭酸ガスボンベに交換または充填する ③ コンプレッサの設定圧力を挙げる ④ 急速排気弁を閉める
中間位置で自然下降する	① ホースの両端のカプラが完全に入っていない ② 急速排気弁が開いている ③ シリンダのジョイント部よりエアが漏れている ④ ホースの亀裂	① カプラを完全に接続する ② 急速排気弁を閉める ③ シリンダのパッキンを交換する（専門工場） ④ ホースを交換する

保守・点検

保　守

共　通

1. シリンダの外面を傷つけないよう、取扱いには十分ご注意ください。
2. 使用前、ホースに亀裂等がないかご確認ください。

水圧・乗用リフト

1. 凍結させないよう、寒冷地には不凍液をご使用ください。
2. 寒冷時に使用した不凍液はシーズン終了後、必ず水に換えてください。
3. 水タンクの水は月に1回以上定期的に交換してください。また水タンク内にごみなどが入ったり、水の腐敗がないようにしてください。
4. エアーが混入してシリンダの動きが悪いときは、必ずエア抜きをしてください。
5. ポンプは回るが上昇しない場合で原因が設定圧力不足のときは、別販売品の圧力テスタを使用して圧力を設定してください。

   P15JE・P22　0.9MPa

   ① 全てを運転状態にし、水圧ホースとアッパー本体との接続部のカプラを外して付属の圧力　テスタを水圧ホースに差込んでください。（図19）
   ② 圧力テスタのボールバルブを閉じ、リモコンスイッチの上昇ボタンを押すと圧力が指示されます。
   ③ 設定圧力になっていない場合ポンプの右側のリリーフ弁の袋ナットをスパナ（21mm）で外し、　マイナスドライバーで調整します。右に回すと高圧、左に回すと低圧になります。
   ④ 所定の圧力を選定した後、下降ボタンを押して圧抜きをします。
   ⑤ 数回同じことを繰り返して圧力を確認後、袋ナットを締付けます。袋ナット締付け後、圧力を　再確認してください。

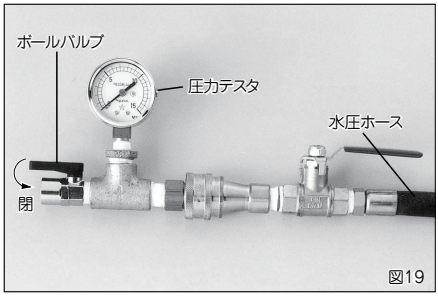


図19

日常点検

作業前に開始点検を行ってください。

共　　通

1. シリンダの異常の有無。
2. ホースの異常の有無。
3. キャスターブレーキ・アウトリガーの異常の有無。

水圧・乗用リフト

1. ポンプユニットの異常の有無。

水圧・気圧リフト

1. 木製天板の異常の有無。

乗用リフト

1. トップステージの異常の有無。

点検において異常が認められた場合は、使用を中止し、直ちに修理を行ってください。

●お客様メモ

後日のために記入しておいてください。
お問合せや部品のご用命の際にお役に立ちます。

製造番号　：
購入年月日：　　年　　月　　日
お買い求めの販売店

Asada アサダ株式会社

本　社／名古屋市北区上飯田西町3-60　TEL(052)911-7165　E-mail:sales@asada.co.jp

支　店／東京・名古屋・大阪
営業所／札幌・仙台・さいたま・横浜
広島・福岡

www.asada.co.jp

海外事業所
アサダ・タイランド社　(バンコク)
台湾浅田股份有限公司　(台北)
アサダ・アーロンコ マシナリー社　(クアラルンプール)
アサダ・ベトナム社　(ホーチミン)
アサダ・インド社　(ムンバイ)
上海浅田進出口有限公司　(上海)
アサダ USA　(オレゴン州・ユージン)

工　場
犬山工場　(愛知県・犬山市)
アサダ第一精工株式会社　(松阪市)
アサダ・マシナリー社　(バンコク)

コードNo. UA039
MEE